

静岡県農林技術研究所 茶業研究センター



**SHIZUOKA PREFECTURAL RESEARCH INSTITUTE OF
AGRICULTURE AND FORESTRY
TEA RESEARCH CENTER**

1706-11 Kurasawa , Kikugawa , Shizuoka 〒439-0002 Japan

〒439-0002 静岡県菊川市倉沢1706-11

TEL (0548) 27-2311 (代) FAX (0548) 27-3935

<http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-820/index.htm>

総務課茶業分室 27-2880

農林大学校茶業分校 27-2888

<研究>

栽培育種科 27-2682 (育種)
27-2884 (栽培)

生産環境科 27-2883 (土壌肥料)
27-2885 (病害虫)

商品開発科 27-2893

●沿革

- 明治41年（1908）静岡県立農事試験場茶業部として発足。
- 昭和12年（1937）静岡県立茶業試験場として独立。
- 昭和25年（1950）試験研究機関の整備統合にともない、県立茶業指導所となる。
- 昭和32年（1957）静岡県茶業試験場に改称。
富士市石坂及び浜松市三方原に分場を設置。
- 昭和40年（1965）三方原分場廃止。
- 昭和55年（1980）静岡県立農林短期大学校茶業分校併設。
- 昭和60年（1985）川根本町地名に山間地技術センターを設置。
- 平成11年（1999）農林短期大学校茶業分校が農林大学校茶業分校に再構成。
- 平成19年（2007）富士分場廃止。
- 平成19年（2007）試験研究機関の整備統合にともない、農林技術研究所茶業研究センターとなる。
- 平成20年（2008）茶業研究センター創立100周年を迎える。



昭和天皇行幸記念碑(昭和6年建立)

●研究方針

県の農林施策基本方針や試験研究に関する戦略指針に沿って策定した試験研究方針に基づき、以下の研究等を実施する。

- ①ビジネス経営生産システムの開発
- ②独自品種・商品の開発
- ③低コスト生産技術の開発
- ④環境保全型施肥・防除技術の開発



本館屋上から北西を望む

●研究内容

栽培育種科

- ①茶園管理の省力・軽労化、低コスト化のための技術開発
- ②気象災害防止のための安定生産技術の開発
- ③整せん枝、被覆等による生育制御技術の開発
- ④早・晩生品種及び香味に特徴のある優良品種の育成
- ⑤機能性成分に富んだ品種、ストレス耐性及び少肥適応性品種の育成
- ⑥育種年限短縮化のための技術開発



乗用型摘採機による
効率的な摘採



新品種育成のための交配作業

生産環境科

- ①環境負荷低減と生産性向上の両立を図る施肥技術の開発
- ②茶樹の生体情報に基づく生育診断・制御技術の開発
- ③有機物資源の有効利用技術の開発
- ④発生予察、生物・耕種的防除等を組み合わせたIPMの確立
- ⑤茶園の生物多様性管理技術の開発
- ⑥難防除病害虫の生態解明と防除法の開発



商品開発科

- ①特徴的な香味や機能性を活かした茶新商品の開発
- ②茶の多用途利用技術の開発
- ③茶の品質評価技術の確立
- ④コスト低減や製茶ラインの衛生管理技術の確立



農林大学校茶業分校 (茶業研究センターに併設)

- ①高い経営能力や実践力を持った茶業従事者や指導者、技術者等、地域茶業を推進するための中核的な人材の育成
- ②茶業研究センター研究員の指導による、専攻分野別の専門的な学習や先進的農家での研修



●茶業史料室

茶業史料室では、全国的にも貴重な史料を多数収蔵しています

- 世界の茶・日本の茶・静岡の茶
- 茶の栽培技術・製茶機械の変遷
- 手もみ製茶関係器具類
(県指定民俗資料)
- 牧之原開拓資料
- 茶業研究センターのあゆみ等

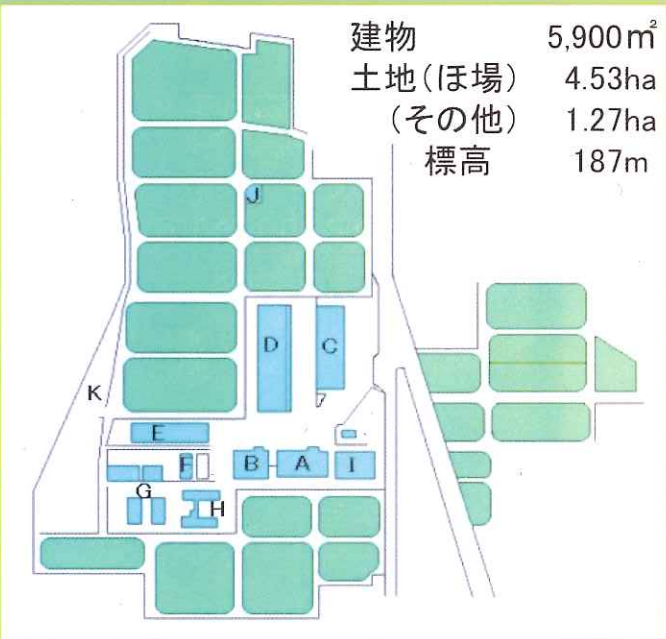


●組織

静岡県農林技術研究所



●施設



- A : 事務室、研究室
- B : 新製品研究棟
- C : 製茶技術研究棟
- D : 新製品開発実験棟
- E : 作業舎、車庫棟
- F : 天敵増殖室
- G : ガラス室
- H : 茶業分校学生寮
- I : 茶業学科棟
- J : 気象観測室
- K : 天皇陛下行幸記念碑



●交通案内

- J R : JR東海道線金谷駅下車、静岡鉄道バス相良行きで約15分、茶業研究センター前下車、徒歩1分
- 自動車 : 東名高速道路・相良牧之原ICから約5分
- 空路 : 富士山静岡空港から車で約10分

